

幼児からスタートする 切れ目ない防災教育

～日常コミュニティがいのちを守る～

防災教育チャレンジプラン
2021年度 活動報告会

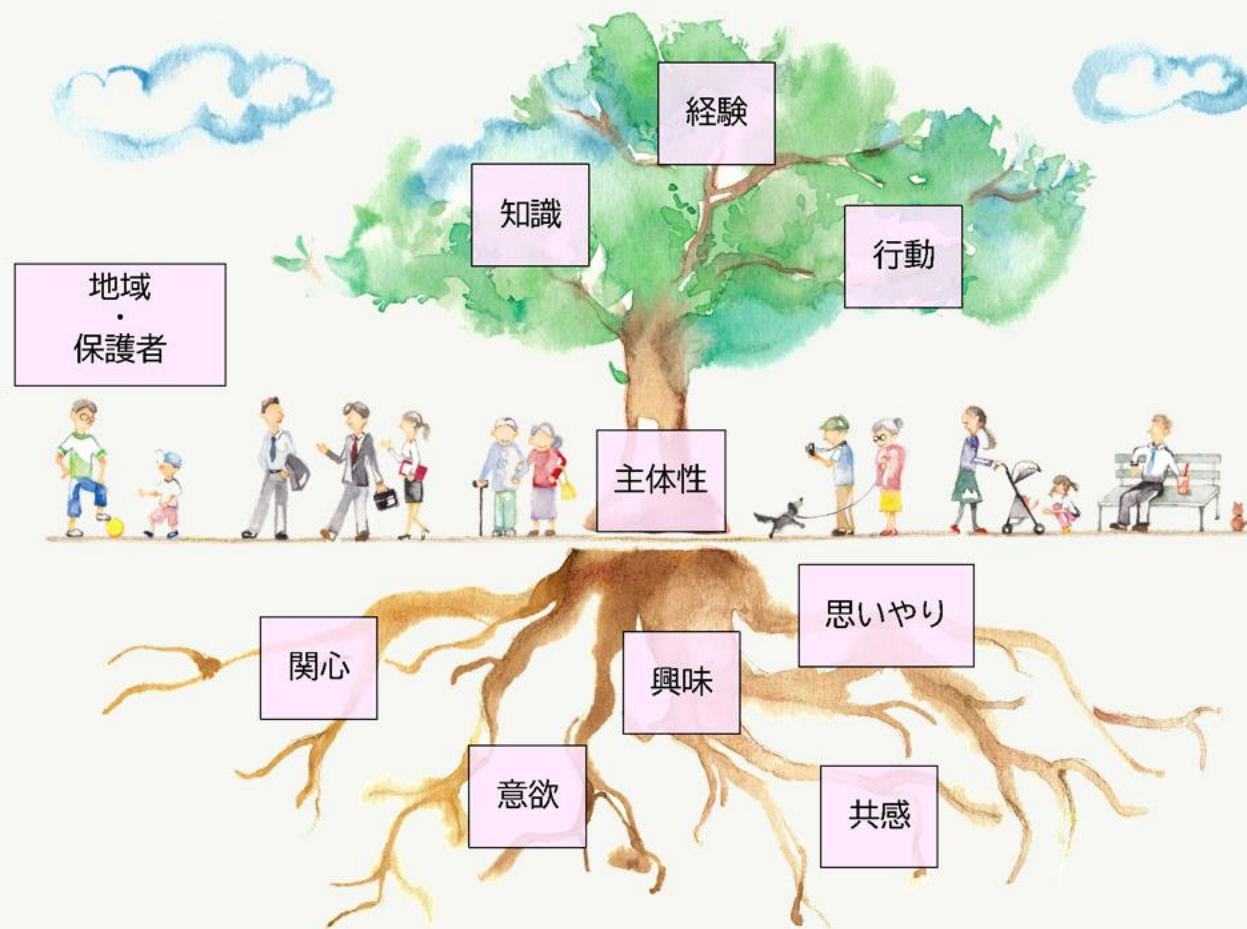
減災Days 細谷 真紀子

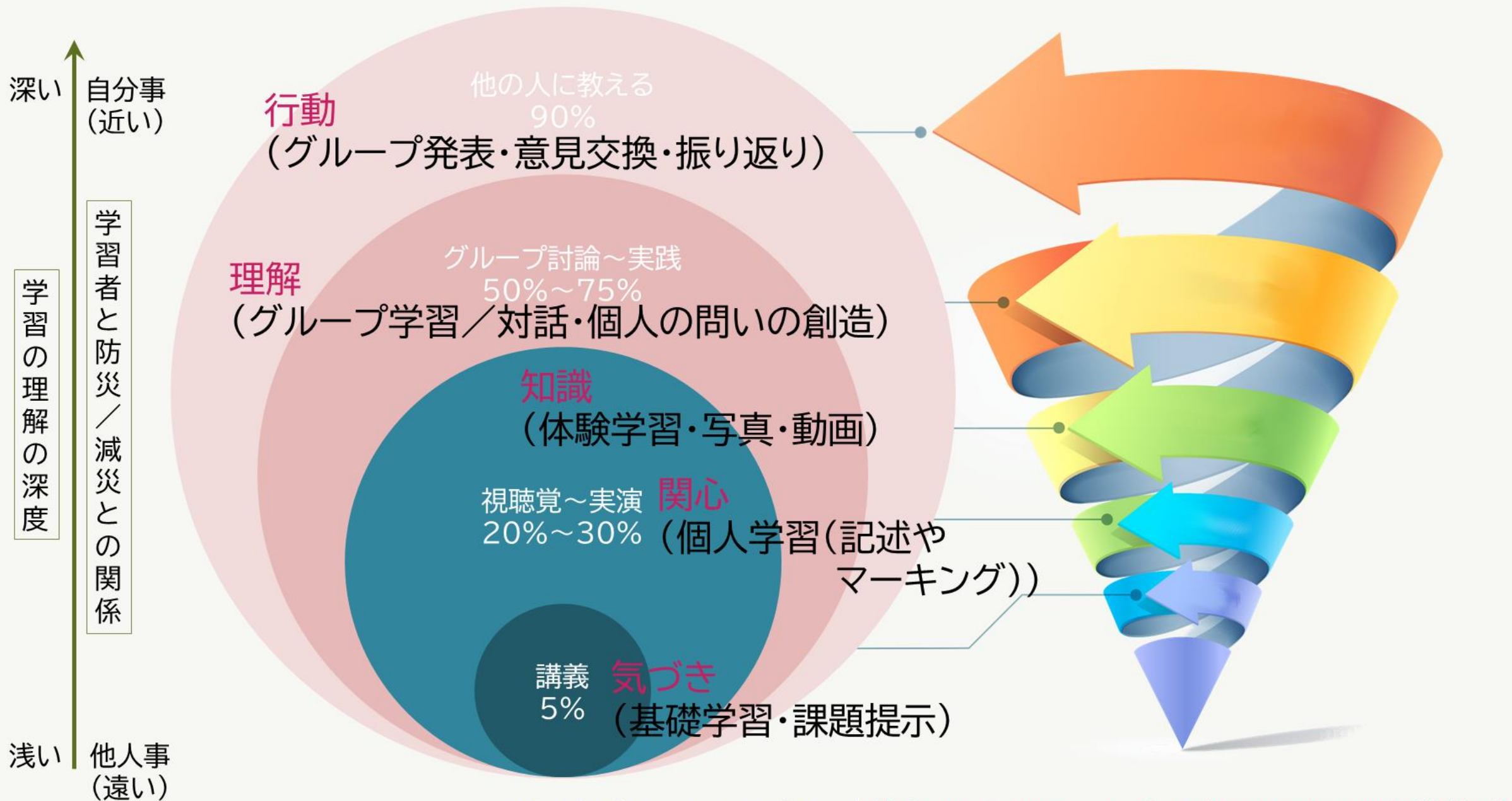
【プランの目的】

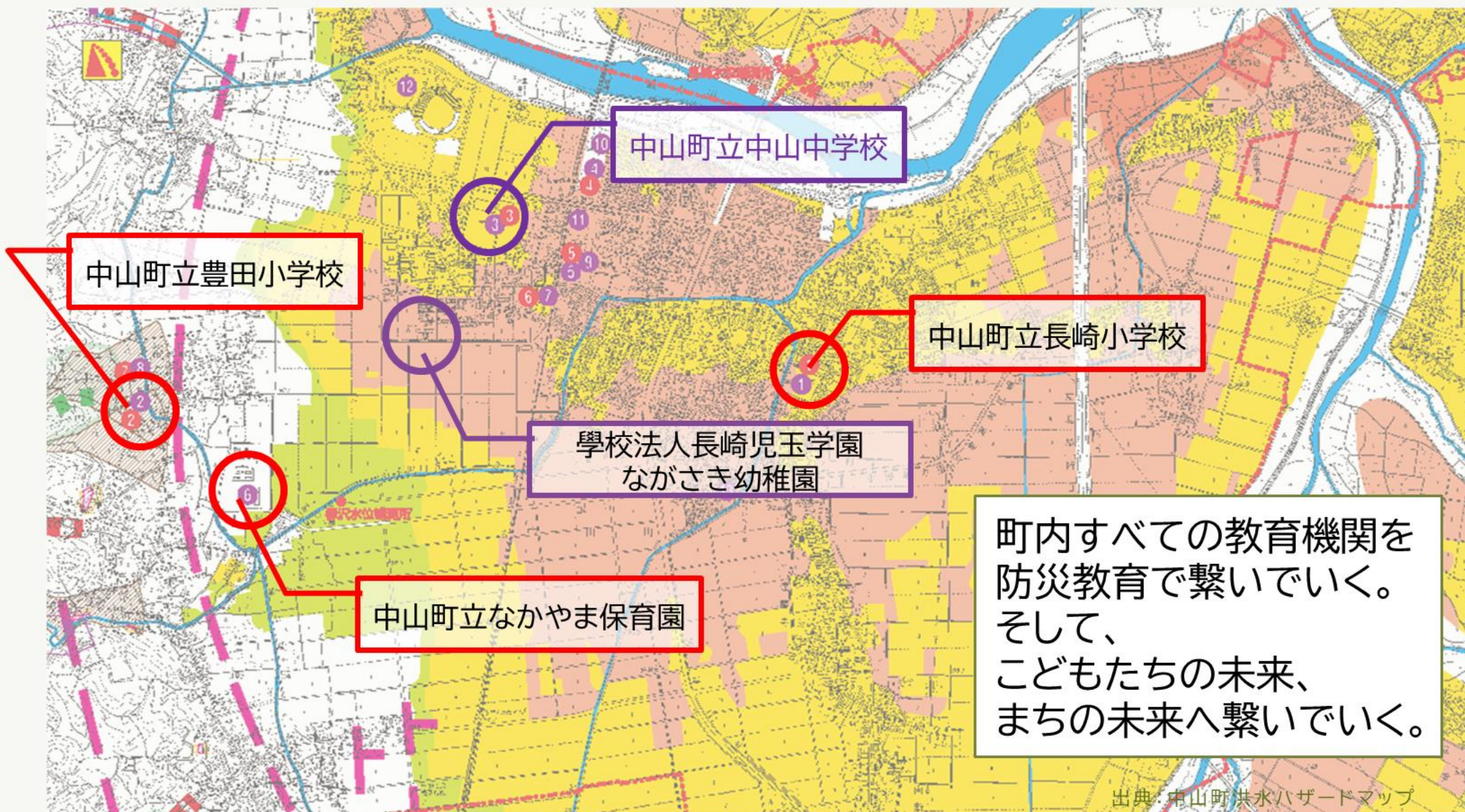
自分たちの未来を、自分たちで選択し、社会に関わる「視点・生きる力」を防災教育を通じ身につけること。



引用：中山町立長崎小学校
児童作成プレゼンテーションより(氏名削除の改編)









郷土の誇りを 未来につなぐ
ひとが輝く健康のまち なかやま
「思いやりの絆で築く、みんなの想いが響くまち」

第6次 中山町総合発展計画

概要版



山形県中山町

分野横断の取組み (重点プロジェクト)

1. 防災・減災
災害につよいまちづくり
に向けた取組み
2. 子どもたちが
住み続けたい・
帰ってきたいと
思えるまちづくり
に向けた取組み

分野横断の取組み
(重点プロジェクト)

No.1

防災・減災

災害につよいまちづくりに向けた取組み

取組みの目標

町においては、地域防災計画の見直しにより、災害情報の発信や避難所の開設・運営、災害時要配慮者等の避難支援など、災害発生時に各部署が担うべき役割の再整理を行うとともに、職員を対象とした災害対応訓練等の充実により、町防災体制の強化を図ります。

また、災害復旧に向けた支援施策の検討や非常用食糧・物資の備蓄など、平時より防災・減災に向けた体制・仕組みづくりを計画的に整備・推進し、災害への備えをより万全なものとするよう努めます。

地域においては、自主防災組織等による地域防災活動等を通して町民の防災意識の高揚を図るとともに、地域住民同士の見守りや声掛け、助け合いなど、平時より地域のつながりづくりを推進することにより、災害や有事の際、地域と行政が「自助」「共助」「公助」それぞれの役割を果たすことができる体制を整え、災害につよいまちづくりを推進します。

さらに、幼児期からの切れ目のない防災教育を実施することにより、子どもたちの町や地域の防災・減災に関する継続的な学びの機会を創出し、災害の際に家族・地域の安全確保に役立つ行動ができる将来の町の防災担い手の育成を目指します。



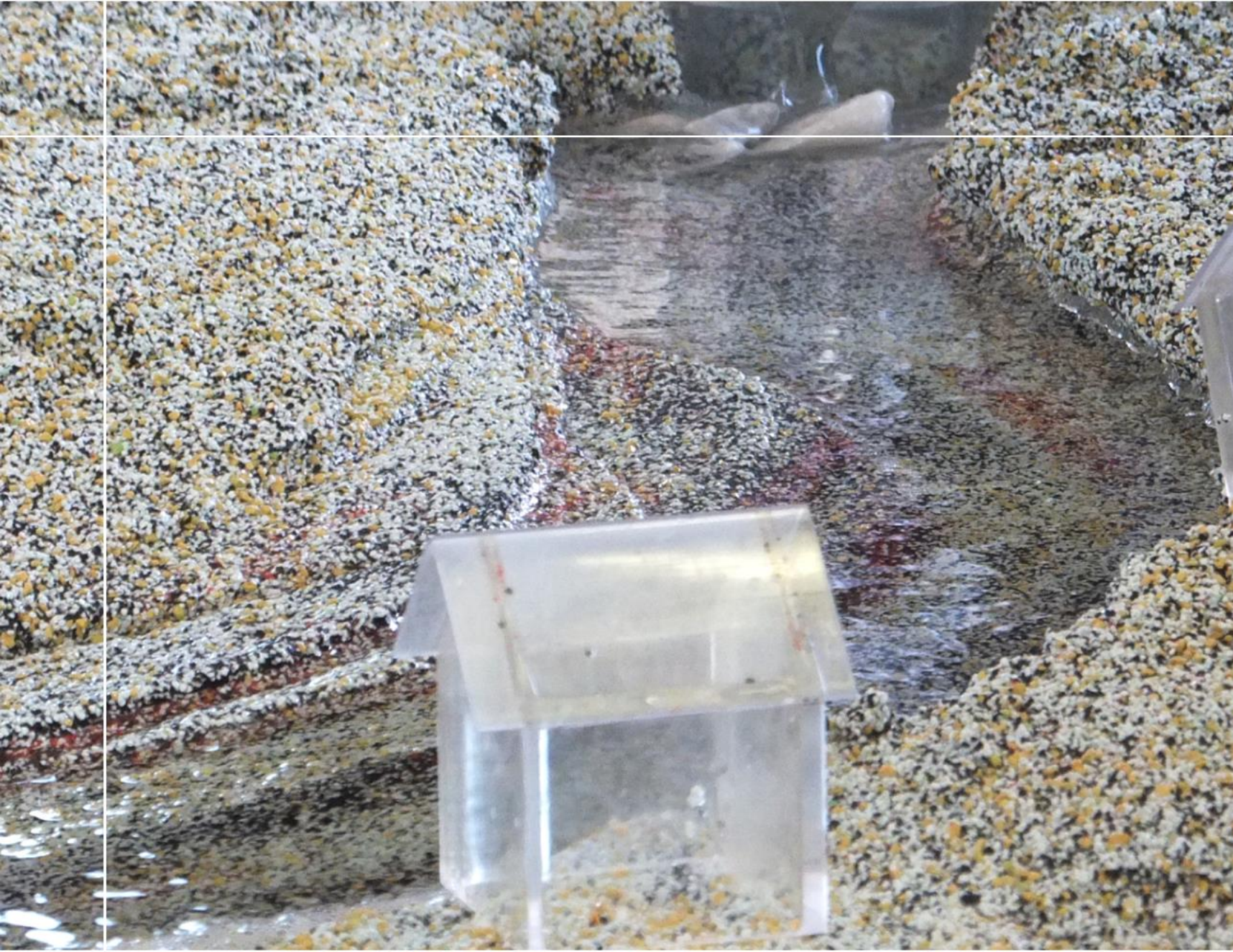


連携して
子どもたちの未来を
サポートしていく。

学校教育

防災
・
減災

まちづくり
(行政)



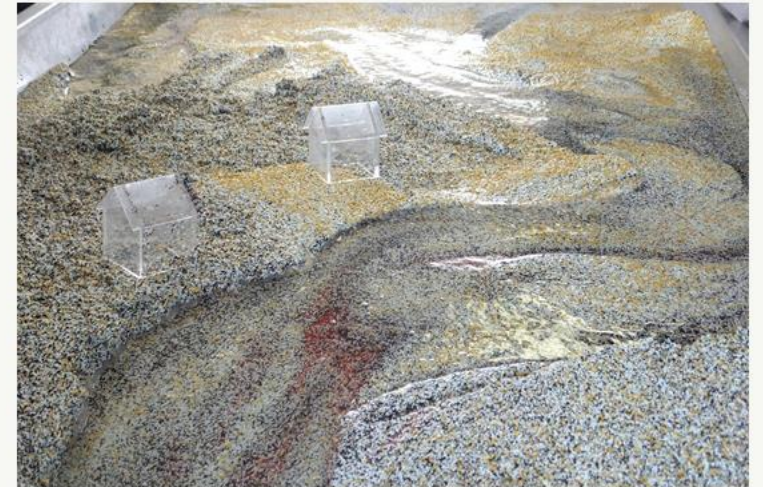
(単元)
流れる水と土地
×
防災・減災

川のはたらき・災害を知って、まちを守ってみよう！

先生方の授業で
単元を事前学習



河川モデルを利用して体
験学習を行い知識を確
認・定着させる。



川のはたらき・災害を知って、まちを守ってみよう！



川の災害からまちを守るにはどうするか？
個々の考えを持ち寄り
グループワークで沢山の
見方・考え方に触れる。



【問題】
住んでいるまちを洪水からどうやって守ろう？
(ヒント:川のはたらきを思い出してみよう！)

【考えてみよう・話してみよう】
予想(守る方法)を書こう(何をどこに使うか?)

上流 消しゴムと岩をかためておく。
中流 家のまわりを消しゴムと岩で支える。
下流 テラポッドをおいて、木をたてる。

(予想した理由)
上. あるていど、高さのある消しゴムと、重さのある岩をかためておけば、流れの速度があるていど弱まると思ったから。
中. 消しゴムをたけたら軽くなって流されてしまうから、岩で支えて強度を高めたから、流されるリスクはへると思ったから。
下. 重さのあるテラポッドをおいて、少しでも流れをとめる。木をたてて、地下の水の流れを少しゆるめる。

【観察の結果】
上. 消しゴムや岩をかためても、洗われたりしてあまり流れる速さは弱められなかった。
中. 家のまわりにコンクリートブロックと岩をおいてかんじょうにしたら最初は水が流れていたけど、少ししたら水がとまって家は流されずじまんだった。
下. 家はまもれたけどテラポッドを大量につめて消しゴムでかんで、岩をたくさんおいても、地下からの水で流れていった。

川のはたらき・災害を知って、まちを守ってみよう！



グループで話し合ったことを、河川モデルで実証実験。
結果はどうなったのか？
まちはどうなったのか？
気づきや自分の思いを共有していく。



【結果から考えられること】

ふり返ろう(例:予想どおりにいかなかった、理由は…)

・守る方法はうまくはたらいかな?

町を守る方法はうまくいった、理由は家の前をコンクリートブロックと岩で囲ったので、堤防を作っても水の流力を弱められたから。

・まちはどうなったろう?

地下から水が流れ出てきた。

地面のかけすられて下流にどんどん流れていった。

・ほかに気が付いたことはあったかな?

木やテラポットなどを地面にうめて地下水の流れを止めようとしても、しん食のはたらきでどんどんけすられていってあまり意味がなかった。

【結果をみて思った自分の考えを書こう】

結ろん

家のまわりをブロックなどで囲った、岩のような重いもので支えたりして少しでもかえようとしておけば、流される可能性は少しくなる。
また、地下にうめたとしても、流れが速ければ「速いほど」しん食と運は水のはたらきが強く、大きくなるので、うめたとしても2つの水のはたらきでうき上がってしまう。

多様な関わりで、学びを深めていく

第2回目の実施に向け、宿題として多様な人との対話から、防災・減災への意識を互いに高めていく。

まちの中にある安全・危険を共に意識していく。

【宿題① みつけてみよう】

地図シートに

学校・おうち・通学路などで災害を防ぐために工夫されている場所 → 青い丸印

危険な場所・災害が起きたことがあると知っている場所 → 赤い丸印

をつけよう。印をつけた場所には番号を①・②・③…と書こう。

【宿題② 印をつけた場所で気づいたことを書こう】

青① ハザードマップでひなん場所に指定されている

青② まわり川が川が少く、少し高いところにあるから

青③ 情報が一番早くとどくからひなんが早くできる

赤① 去年のこう水でひかいをうけた土地が低いから

赤② もかみ川が近いから、はんらんするときけん

赤③ 川が近いからはんらんするときけん

【宿題③ できた地図とワークシートを見ながら、おうちの人と話してみよう。】

おうちの人と話して、他に気がついたことがあれば、地図・ワークシートに書き足そう。

学校・おうち・通学路などで災害を防ぐために工夫されている場所 → 緑色丸印

危険な場所・災害が起きたことがあると知っている場所 → 黄色丸印

緑① 学校がひなん場所になるから。

緑② 学校がひなん場所になるから。

緑③ 体育館がひなん場所になるから。

黄① 7月のこう水で、こう水になった。

黄② 7月のこう水で、こう水になった。

黄③ 7月のこう水で、こう水になった。

黄④ 7月のこう水で、とみんなくなつた。

黄⑤ 7月のこう水で、とみんなくなつた。

【宿題④ 令和2年7月豪雨の時「おうちの人を感じた思い・気持ち」を聞いてみよう】

※おうちの方へ…家族・仕事・お家・行動など、どんなものに対する気持ちで構いません。災害前後に感じた事をお話してください。
(例:学校から連絡が来たときみんなのことが心配になった、最上川が堤防ギリギリまで水が来ていて怖かった、まさかと思った、避難する準備をしていたから落ち着いて行動出来た、など、何個でも。)

話した・聞いた内容を書こう。

最上川の上流(米沢地方)にもう少し、雨が降ったら長崎を流れる最上川は、はんらんしたのではないかと心配した。

中山町は、ひなん場所があるが、自分の家からひなん場所まで、きけんな場所を通る、いかなければならぬからこの場所。

【宿題⑤ 宿題①～④をふり返り、疑問に思ったことやもっと知りたいことを書こう】

(例:小さい川にはどうして堤防がないの?など)

ひなん場所に行くときひんきけんな場所をどう避ければいいの?



(単元)
自然災害を防ぐ
×
防災・減災

まちにはどんな災害がおきるの？探ってみよう！

先生方が宿題に目を通し、子どもたちの思いを共有してくれたお陰で、子どもたちの調べ学習がぐんぐん進んだ！



宿題をグループワークで共有。災害の知識を写真や動画で深める。

自分でハザードマップを作り、身の回りで起きる災害を理解する。





ICT教育
×
アナログ教材
×
防災・減災

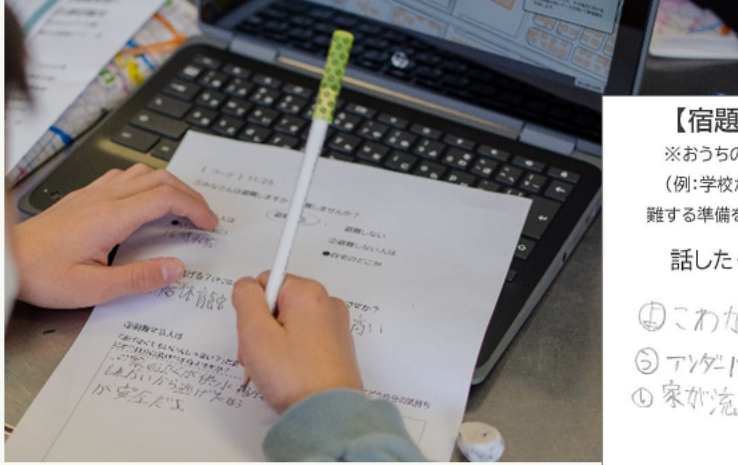
どうやったらいのちやまち・くらしを守れる？①



ハザードマップを作り、対話する中で、広域避難の必要性を感じた子どもたち。

デジタルマップやARシュミレーターと段ボールジオラマ、自分で作ったハザードマップを比較して、災害の特性を知る。

どうやったらいのちやまち・くらしを守れる？①



【宿題④ 令和2年7月豪雨の時「うちの人が感じた思い・気持ち」を聞いてみよう】

※うちの方へ…家族・仕事・お家・行動など、どんなものに対しての気持ちで構いません。災害前後に感じた事をお話してください。
(例:学校から連絡が来たときみんなのことが心配になった、最上川が堤防ギリギリまで水が来ていて怖かった、まさかと思った、避難する準備をしていたから落ち着いて行動出来た、など、何個でも。)

話した・聞いた内容を書こう。

- ①こわかった。家への不安、避難場所はどうしよう。
- ②アンダーパスが通れず不便だった。そこから水があふれていて父が心配
- ③家が流されないか不安な気持ち、他の人の安否が心配。

- ・しんぼり川が(みらん直前)だったので、逃げる準備をしなきゃと思った
- ・避難する時、おじいちゃんおばあちゃんが一緒にいけるか心配だった
- ・中学校に避難しようとしても道路が渋滞していて避難できず困った

・うちはもり土がしてあって高いのでしんぼりはしなくて良かったけど家に出る道路が全部水で家から出入りできなくなったのでびっくりしました。

・災害はいつ起きるかわからないから、どこに避難するか、防災グッズはどこに置くかをあらかじめ決めておかないといけないと感じた。

話した・聞いた内容を書こう。

・最上川の上流(米沢地方)にもう少し雨が降ったら長崎を流れる最上川は、はんらんしたのではないかと心配した
・中山町は、避難場所があるが、自分の家から避難場所まで、きけんな場所を通る。いかなければならぬかなと不安

・お家、自分の家の前まで水がくるとは思わなかった。
・避難場所に行かなくて良かったと喜んでお母さんに話した。

話した・聞いた内容を書こう。

母…すぐにお父さんと一緒に避難所に行けなくて、祖父おじいさんに協力してもらって助かった。
・ニュースでほかの県の災害を見ていたが、明日は我が身だと思った。
・水や食糧を準備するようになった。

宿題で家族にインタビューした内容から、令和2年7月豪雨時の避難行動を振り返り、自分ならどうするかを考える。

もしも、あの時に戻れるのなら…どんな未来にしたかったらいい？

「未来を守る行動宣言」で防災・減災の行動で「もしもの時」と「未来」を考える。

4

宣言!



未来を守る
私の行動宣言

減災
防災

必要な物を
とる
情報を知
伝える

バスなど
必要なものを

非常食

行動
私の行動宣言

食糧を
とるべく

いとも
逃れられる準備

安全な場所を
家族に伝える

危険な
場所を
知っておく

危険なところを確認
避難できる準備

災害を
広げないように準備
玄関に
ものを準備

119ドマツガ
見直して準備
食糧
準備

避難
バスをとる



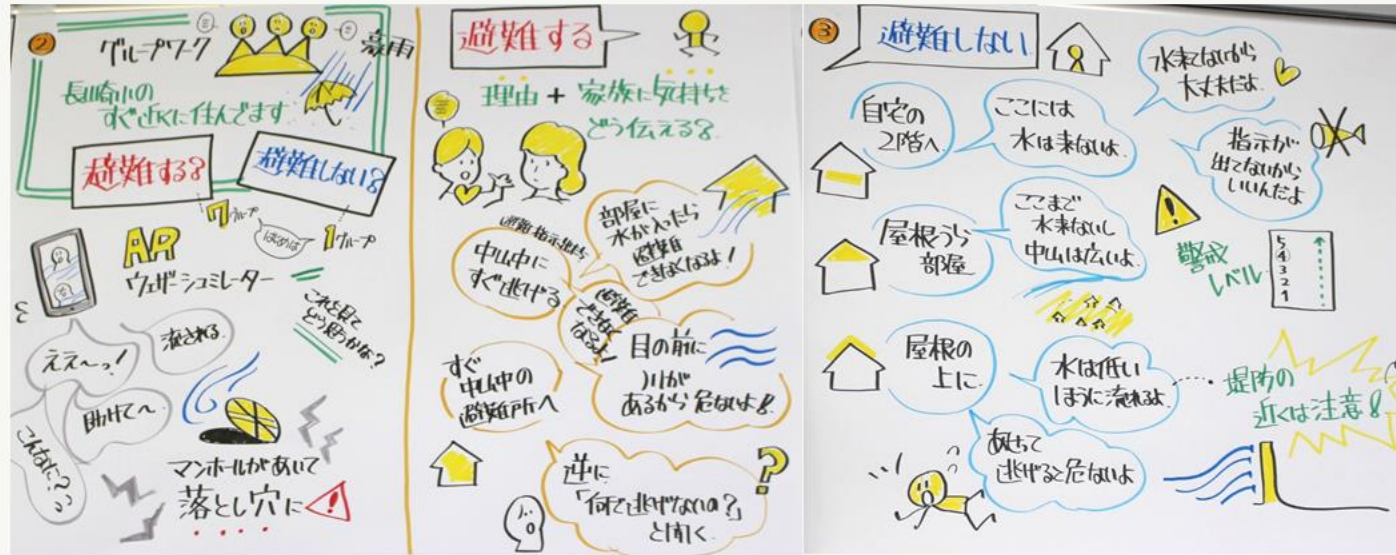
バスに
知らせる

話して
先や
が定める

いとも
逃れられる
準備

のためにも

どうやったらいのちやまち・くらしを守れる？②



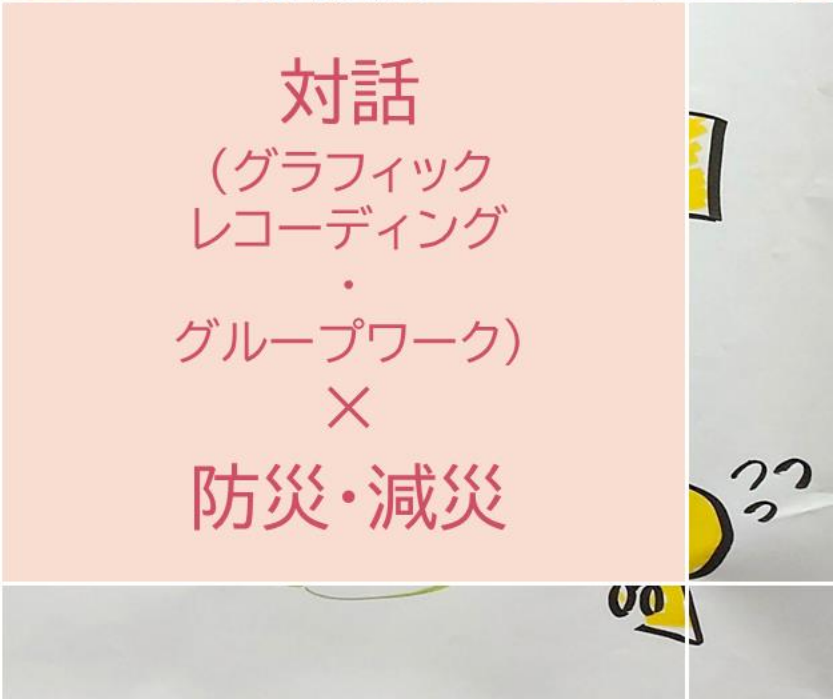
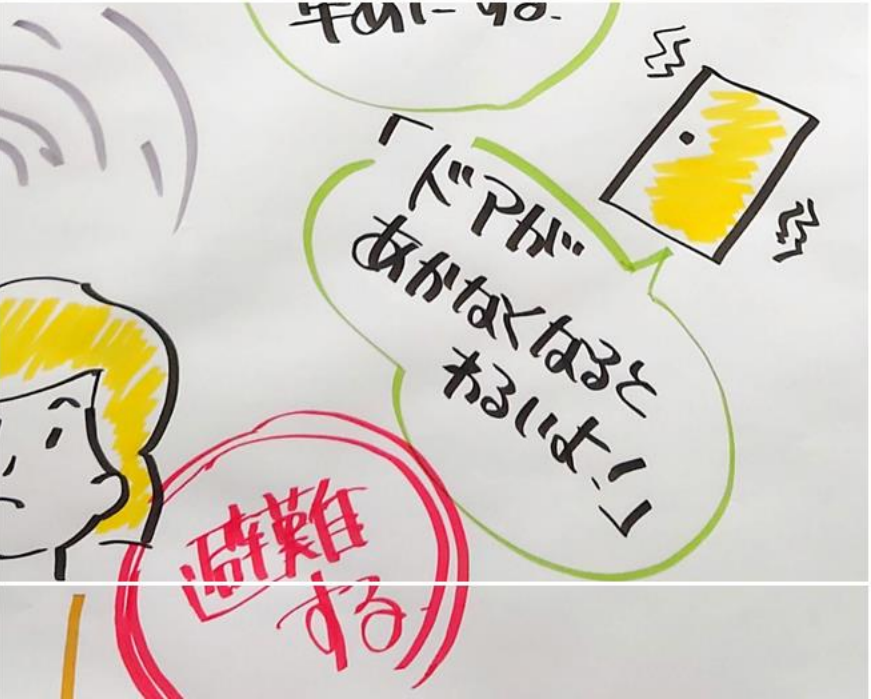
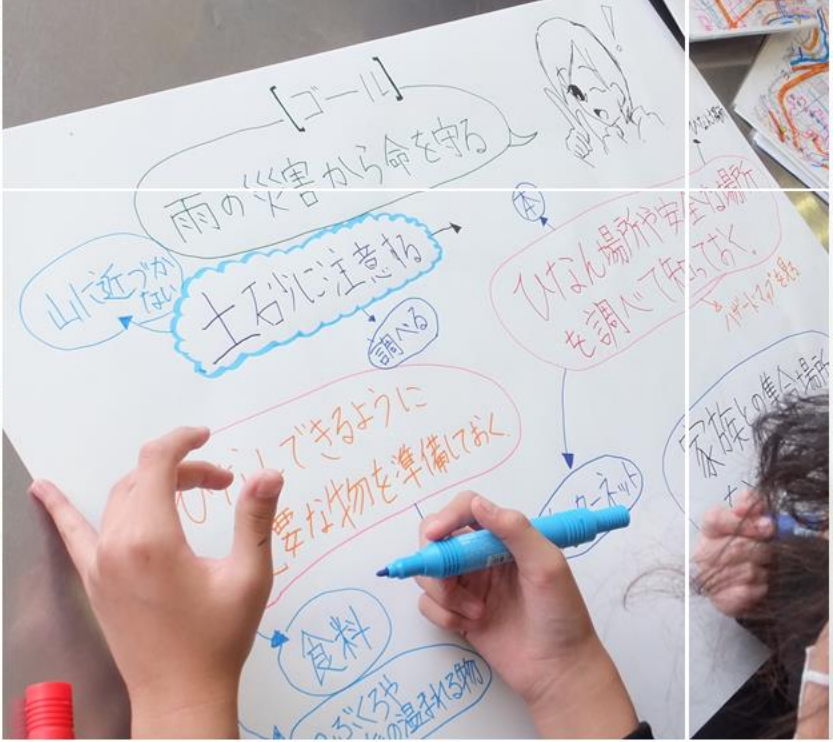
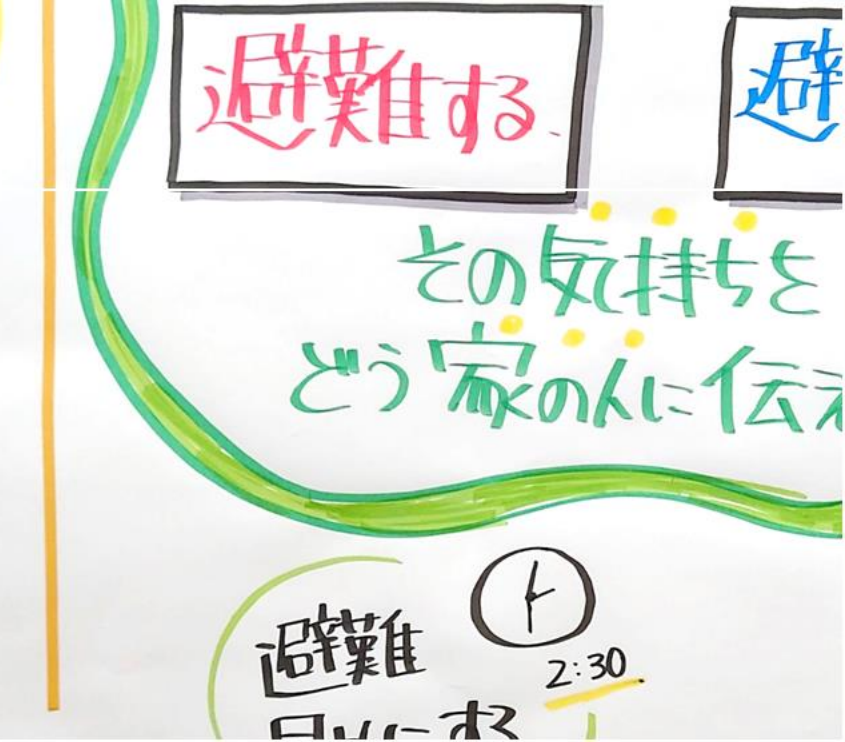
『避難すること』についての多様な考えに気づき、対話の大切さ、どうして避難するのか？を個人ワークとグループワークで深めていく。

「もし、家族が自分の意見と反対だったら、どう気持ちを伝える？」

誰かのところに届けるには？を考えていく。

③避難する人は	③避難しない人は	③避難する人は	③避難しない人は
「逃げなくてもいいんじゃない？」と言う家族にどう自分の気持ちを伝えますか？	「逃げようよ」と言う家族にどう自分の気持ちを伝えますか？	「逃げなくてもいいんじゃない？」と言う家族にどう自分の気持ちを伝えますか？	「逃げようよ」と言う家族にどう自分の気持ちを伝えますか？
<ul style="list-style-type: none"> ・外に水がきたら外に逃げられなくなるよ」 ・「水がきてからでいいよ。」 ・「ガードマンの姿を見せようから説得する。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「また大丈夫じゃない？」 ・「死か家まであふれないかもしれないよ。」 ・「もし、みんな所に行ってもどこもあいていないよ。どうするの？」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「避難しないと、どうなるかわからないよ。」 ・「命の方が大切。」 ・「もしもに備えて逃げようよ。」 ・「水がきてからでは、おそいよ。」 ・「私達の家は、3.0~5.0m未満だから。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「水が家にくるか分からないよ。」 ・「また大丈夫。」 ・「逃げて避難所に行っても、入れないかもよ。」 ・「家の方が安全だよ。」

あせらおに



どうやったらいのちやまち・くらしを守れる？②



未来のいのちを守るためには、沢山の人の関わりや多様なものの見方、共に活動することが大切な事を知った子どもたち。まちには沢山の人が住んでいる。防災・減災には、どんな役割があるだろう？スタンプラリーでまちづくりの防災・減災の繋がりを知る。

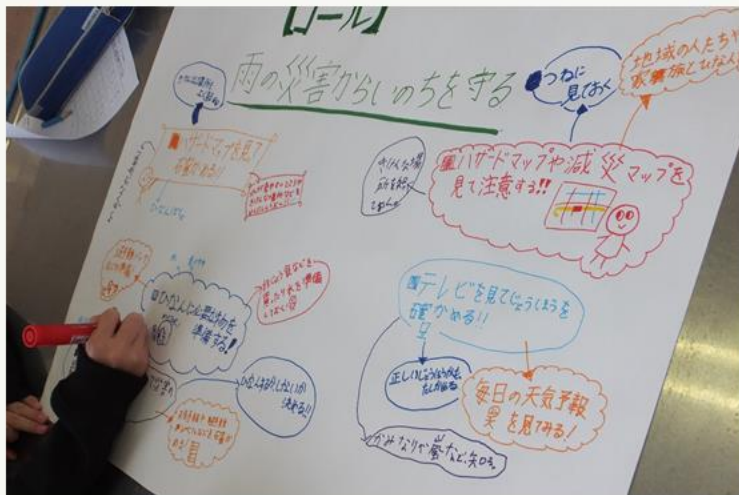
どうやったらいのちやまち・くらしを守れる？②



グラフィックレコーディングにより、伝えたかったことがどんどん見えるようになり、それが誰かに伝わっていく。

この経験で、自分たちも言語化するだけではなく「書いてみたい!」「伝えたい!」そんな気持ちが生まれた。

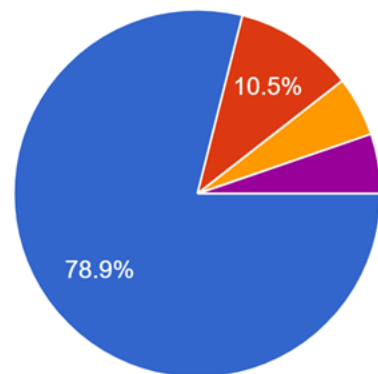
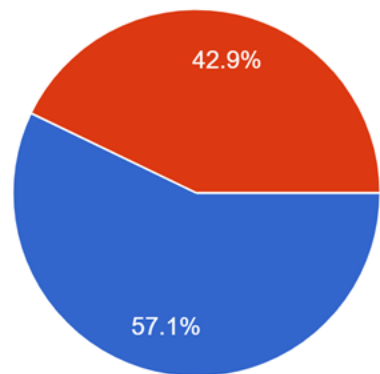
雨の災害からいのちを守る…自分の行動は、誰かの行動と繋がっていた。



学校防災・家庭防災に繋がる防災教育

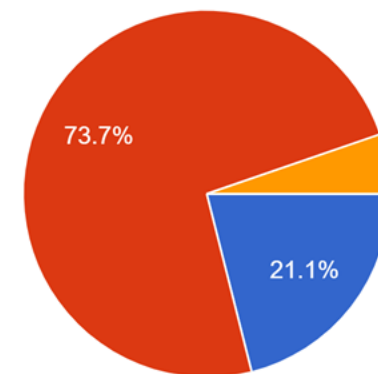
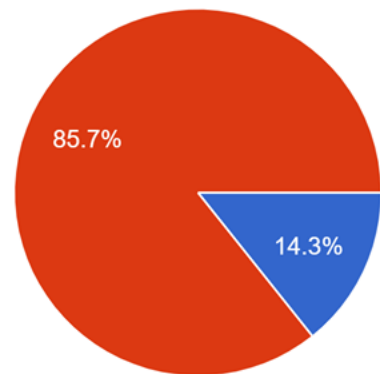
小学校 生徒アンケート

①防災の授業について



- もっと学びたい
- 教わった内容を誰かに教えたい
- 授業が終わったのでもう特に興味がない
- あまり学びたくない
- わからない

②自分の気持ちは



- 授業の前から防災意識（防災やらなくちゃ！という気持ち）が高く、今も高い。
- 授業の前より防災意識（防災やらなくちゃ！という気持ち）が高くなった
- 授業の前と変わらずあまり興味がない
- 授業の前より防災意識が低くなった（意欲が無くなった）と感じる
- よくわからない

もっと防災を
学びたい！

楽しく防災を
身につけて
いきたい！

誰かに
伝えたい！

自分たちが
感じた
防災・減災を
誰かに
伝えたい！





あそび
(うんどう・
読み聞かせ)
×
防災・減災

いのちをまもる変身うんどう！



「ぼうさいってことば
きいたことあるかな？」

「しらなーい！」

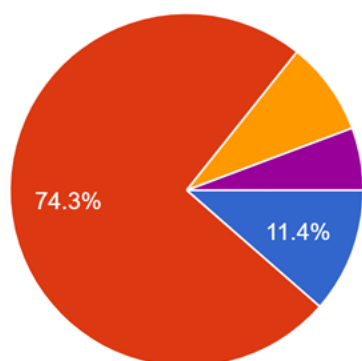
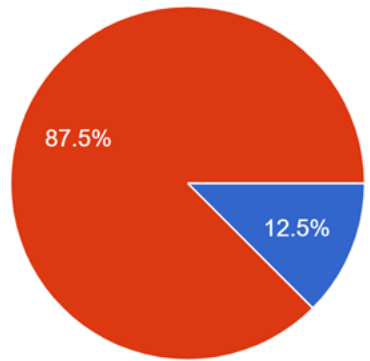
ぼうさいとの初めての出会
いは楽しく日常にあるもので
あって欲しい。

その中にも、うんどうの基礎と
まちづくりの視点の種まきを。

学校防災・家庭防災に繋がる防災教育

小学校 保護者アンケート

①お子さんの防災意識は



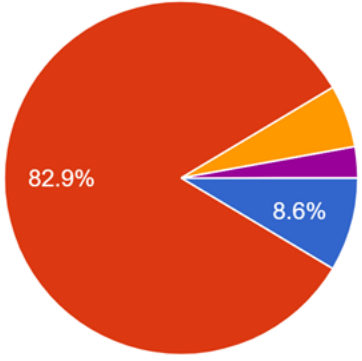
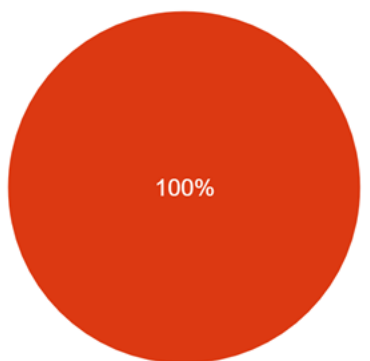
- 以前から防災意識が高く、意欲が継続している
- 実施前より防災意識が高くなった (意欲が高まった) と感じる
- 実施前と変わらずあまり興味がないようだ
- 実施前より防災意識が低くなった (意欲が無くなった) と感じる
- よくわからない

習った内容を
知りたい！

興味がない…
そんな回答でも

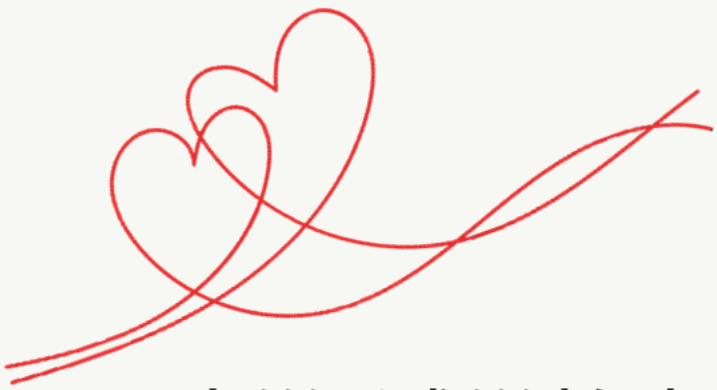
習った内容を
知りたい！

②お子さんの防災教育を通じてのご自身の防災意識は



- 自身は元々、防災意識が高かった (意欲が継続している)
- 実施前より防災意識が高くなった (意欲が高まった) と感じる
- 実施前と変わらずあまり興味がない
- 実施前より防災意識が低くなった (意欲が無くなった) と感じる
- よくわからない

興味がない…
そんな回答でも
学校教育で実施し
てほしい！
学校と地域が
連携してほしい！



防災・減災教育を
こどもたちの未来、まちの未来へ繋いでいく。

防災・減災はいのちを守った先の笑顔の為に。

ご清聴いただきありがとうございました。

